

学校教育目標		『つながり』を大切に 自ら未来を切り開いていく 児童の育成							総合評価		
運 営 方 針		○『TSUNAGARU～人と、世界と、未来と、心と。』を合い言葉に、強い使命感をもった教職員集団で、子どもたちに「予測不可能な時代を生き抜く力」を育てる。 ○保護者・地域と学校が双方向で協力し合える学校づくりを通して地域の人々から愛され信頼される学校を目指す。									
令和6年度 学校評価総括表		本年度の重点目標				具 体 的 目 標					
○ライティングチェックリストの作成 ○書くことへの苦手意識の軽減 ○図書に親しむ活動の充実 ○ふるさと学習の充実 ○コミュフェスなど地域とつながる機会の確保 ●低学力傾向の児童が多い ●自尊感情が低い児童 ●大きな声で挨拶ができていない ●走能力に課題がある ●早寝早起き朝ご飯の意識が低い ●時間外業務時間が45時間を超える職員がいる		◎言葉にこだわった論理力指導による確かな読解力の育成				○系統性を意識した書く活動による読解力向上 ○読書活動の推進による語彙力向上					
		◎集団生活を通した豊かな人間関係づくり				○異学年交流の充実 ○主体的な態度の育成					
		◎自己を見つめ直し他者を思いやる心の育成				○規範意識の向上と挨拶習慣の定着					
						○他者理解と人権教育の充実					
		◎運動習慣の定着による基礎体力の向上				○興味や関心を中心にした運動習慣の定着化					
						○課題の分析と生活習慣改善による基礎体力の向上					
		◎小中一貫教育、教職員の働き方改革の推進				○学園構想に基づいた小中一貫教育の推進					
						○業務の効率化による働き方改革の推進					
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標			自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)		改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
読 書 活 動 指 導 に 関 連 し た 読 解 力 育 成 の 確 かな 論 理 力 導 入	系統性を意識した書く活動、読書活動の推進による語彙力向上と読解力向上	領域「書くこと」の系統性を意識した指導を通し、各発達段階での知識・技能の定着を図る。また、身に付けた知識・技能を活用した「書く」機会を多く設ける。「書くことが昨年よりも得意になった」と答える児童3. 2以上を目指す。									
		読書活動の充実により児童の読書意欲を向上させることで、知識語彙の獲得を目指す。また、「書く」「話す」機会を設け、「習得した語彙を使ってみようとした」と答える児童3. 2以上を目指す。									
集 団 生 活 関 係 を つ づ け る 豊 かな 人 間 交 流 の 充 実	異学年交流の充実 主体的な態度の育成	東っこ集会(年間4回)や集会活動(年間3回)を計画し、異学年交流の充実を図る。また、感想を交流することでお互いを認め合うことができるようにし、児童がつながる機会を確保する。									
		係活動を子どもたちが振り返る機会を確保したり、委員会の掲示板を整備し見通しをもって活動できるようにすることで、「自分で考え進んで行動することができる」と答えた児童2. 8以上を目指す。									
育 成 意 識 の 確 立 自 己 を 見 つ め 直 し 他 者 を 思 い や る 心 の 育 成	規範意識の向上と挨拶習慣の定着	毎月の生活目標について、全校朝会で話をしたり、給食の時間に放送を入れたりする。また、各学級で児童の実態に応じて、生活目標についての話をすることで意識づけする。「生活目標に気をつけることができた」と答える児童3. 2以上を目指す。									
		各学年で挨拶リーダーを募ったり、委員会活動による挨拶運動を毎学期したりすることで、「自分から進んで挨拶をすることができる」と答える児童3. 2以上を目指す。									
	他者理解と人権教育の充実	月ごとに人権テーマを設定し、全校朝会でテーマに合った発表や講話を行う。人権テーマに合ったソーシャルスキルトレーニングを各学級で月1回行う。「毎月人権テーマについて考えることができた」と答える児童3. 6以上をめざす。									
		学級活動や学校行事の中で仲間とつながる経験を通してレジリエンスを高める。講師を招聘しレジリエンス学習を充実させる。ほっと♡タイムを週1回行う。「しんどいことがあってもくじけずがんばることができる」と答える児童3. 2以上を目指す。									
運 動 活 動 関 連 し た 運 動 意 識 の 確 立 運 動 意 識 の 確 立	興味や関心を中心にした運動習慣の定着化	ハッスルキッズ(体育委員を中心に企画・運営)を学期に1回程度行い、走に関する活動を取り入れる。また、校内表彰を通じて、運動が好きな児童を育成する。「身体を動かすことが好き」と答える児童3. 2以上を目指す。									
		休み時間に各学年が進んで身体を動かしたり、遊んだりできるよう、週に1回体育館を開放する。また、児童が活用できる用具を各学年に割り当てる。									
	課題の分析と生活習慣改善による基礎体力の向上	年間を通して体力・運動能力の向上に取り組む。体育の時間に、握力・柔軟体操を取り入れる。各学年柔軟と握力で県平均を上回ることを目指す。									
		生活調べを活用し、自身の生活習慣を振り返る機会を学期に1回もつ。「健康に過ごすために学校で学習したことを普段の生活に取り入れようとしている」と答える児童3. 2以上を目指す。									
小 中 一 貫 教 育 の 推 進 働 き 方 改 革 の 推 進	学園構想に基づいた小中一貫教育の推進	東部学園の全職員が共通理解の上、学園運営に参画するため、東部学園職員全体研修を3回行う。研究授業について適宜交流する。コミュニティフェスティバルも行う。									
	業務の効率化による働き方改革の推進	更なる業務の効率化のために、各業務のやり方の整理、共有し、業務を精選の上での削減を行う。施設目標を19時と設定し、1ヶ月の平均時間外業務時間が45時間以内を目指す。									
今年度の成果と次年度への課題		[成果]					[課題]				